

1. 授業の概要(ねらい)

本演習は、「エスノメソドロジー・会話分析」という立場から、データを用いて教育実践を研究するとはどういうことを学んでいくための演習である。

授業をはじめとして、あらゆる教育実践は「実際に使われているのに気づかれていない」様々な方法によって組み立てられている。エスノメソドロジー・会話分析とは、そうした気づかれざる方法をデータの詳細な検討にもとづき明らかにする立場であり、またそうすることで実践者たちに意義ある反省の素材を提供することのできる立場である。

本演習では日本語文献の輪読(担当者によるプレゼンテーションとディスカッション)を通して、①エスノメソドロジー・会話分析の立場から実践を研究するとはどういうことを学び、そのうえで、②その立場からこれまで明らかにされてきた成果を批判的に検討する目を養う。最後にその成果にもとづき、③実際のデータを素材に分析的な検討をおこなう。

2. 授業の到達目標

- ①エスノメソドロジー・会話分析の立場からの教育実践研究について、その概要・特殊性・意義を説明できる。
- ②日常会話を形作る組織の諸側面について、その概略を説明できる。
- ③授業会話を形作る組織の諸側面について、その概略を説明できる。
- ④①の立場にたち、②③の知識を動員しながら、実際の教育実践の事例を読み解くことができる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・平常点(議論への貢献度など):30%
- ・プレゼンテーションの内容:30%
- ・最終成果物:40%

4. 教科書・参考文献

参考文献

- 串田秀世・平本毅・林誠(2017)『会話分析入門』勁草書房
高木智世・細田由利・森田笑(2016)『会話分析の基礎』ひつじ書房

5. 準備学修の内容

- ・自分の担当回の報告資料(主にスライド)を、必ず演習開始時間までに準備すること。
- ・自分の担当回以外でも、必ず各回の指定文献を熟読し、自分の意見を演習中に示せるようにしておくこと。

6. その他履修上の注意事項

演習の充実度は、参加者たち自身が作り上げていく議論にかかっている。そのことを心に留め、演習中の議論には間違いを恐れず積極的に参加してほしい。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション(1)——自己紹介・文献の紹介と決定など
 - 【第2回】 オリエンテーション(2)——報告担当の決定・レジュメ作成上の注意など
 - 【第3回】 エスノメソドロジーとは何か(1)——自然に「わかる」ことの構造を問う
 - 【第4回】 エスノメソドロジーとは何か(2)——自然に「できる」ことの構造を問う
 - 【第5回】 会話分析とは何か(1)——行為の構成と理解
 - 【第6回】 会話分析とは何か(2)——発言の順番交代組織
 - 【第7回】 会話分析とは何か(3)——行為連鎖と優先性の組織
 - 【第8回】 会話分析とは何か(4)——トラブルの修復・誤りの訂正の組織
 - 【第9回】 授業場面のエスノメソドロジー・会話分析(1)——授業会話の研究
 - 【第10回】 授業場面のエスノメソドロジー・会話分析(2)——授業のワークの研究
 - 【第11回】 研究論文の批判的検討(1)——中心としての行為連鎖組織
 - 【第12回】 研究論文の批判的検討(2)——行為連鎖組織の外側へ
 - 【第13回】 授業場面の映像データ検討(1)——トランスクリプションの作成技法を学ぶ
 - 【第14回】 授業場面の映像データ検討(2)——データセッションで授業の観方を磨く
 - 【第15回】 おわりに——最終レポート作成に向けて演習全体を振り返る
- 注:上記計画は、受講者の学習状況や問題関心に応じて変更することがあります。